

「里山」整備活動と「竹」の可能性

大井里山保全協議会
(チャレンジ事業2年目)

7月11日に無煙炭器を使った「竹炭」「竹灰」作りを実施した。
4人で、国道410号沿いの伐採した「篠竹」が今回のテスト材である。



写真は「ぐみ」の巨木に藤が巻きついたものである。
農地の縁にあって木陰が爽快な空間を創っている。
篠竹の伐採前には気づかない里山の風景です。
道路脇には大量の伐採物が山となって・・・

これを無煙炭器を使って「竹炭」「竹灰」にするテスト作業です。
今回は、組み立て式の無煙炭器を使用、竹用のチェーンソーで≒50cmに切り、無煙炭器に投げ込みます。



無煙炭器の特徴は、煙を抑え、下部には高温と無酸素で炭を作ることです。
無煙炭器はその構造から内側に炎を集め2段燃焼させるために煙を抑えることで伐採付近でも作業が出来る事である。



4人半日で200L程度の竹炭が出来ました。
今後、これを会員に貸出し農地や隣地の整備時に使用
焼却→「炭素固定化」更
にその応用へと展開します。

*** 竹灰を回収する為に水消火をしていません。冷却には2日必要です。**
篩分けや粒度調整等にも課題が残っています。